名古屋市教育委員会定例会

令和2年8月7日

午後3時00分

教育館3階 第1・2・3研修室

議 事

- 日程1 請願の取扱いについて
- 日程2 令和3年度使用教科用図書採択について
(中学校用のうち、社会(歴史的分野)、社会(公民的分野))
- 日程3 第13号議案 名古屋市立小学校の通学区域の変更について
- 日程4 第14号議案 名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会委員の委嘱について

出席者

鈴木 誠 二 教育長
小栗 成 男 委 員
船津 静 代 委 員
小嶋 雅 代 委 員
西淵 茂 男 委 員
鎌田 敏 行 委 員

教育次長始め、事務局員9名 ※傍聴者80名

(鈴木教育長)

それではただ今から教育委員会定例会を開催いたします。

本日は多数の傍聴申し込みが見込まれたため、傍聴人の定員を教育委員会傍聴規則に定める10人から80人に拡大して受け入れておりますのでご理解のほどお願いいたします。では、議事運営についてお諮りいたします。

議事日程第4「名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会委員の委嘱について」につきましては、名古屋市教育委員会会議規則第6条の規定に基づき、非公開にて審議したいと思います。また、会議録につきましても議事日程第4については非公開したいと思います。いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(鈴木教育長)

次に、傍聴の方も含め、ここにおられる皆様をお願いいたします。日程第2の令和3年度使用教科用図書採択に関しましては、県の指導を受け、採択結果は8月31日まで非公開としております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

(鈴木教育長)

ではこれより、日程第1「請願の取扱いについて」を議題といたしますので、事務局の説明をお願いします。

(櫻井総務課長)

日程1「請願の取扱いについて」をご説明いたします。

さる7月29日の臨時会から本日までの間に請願が3件寄せられており、それぞれ口頭陳述を行いたい旨の申し出がございました。これらはいずれも本日予定している教科書採択に関する請願であり、前回会議の議論を前提とした内容となっております。

事務局といたしましては、日はまたいでいるものの、前回の審議と今回の審議は一体である中であって、これらの請願は、委員の皆様のご発言に対する賛否を表す内容が含まれるものであることからいたしますと、本請願を審議に供することは、文部科学省が示す静ひつな審議環境の確保の観点から踏まえると、疑義があるものと考えてございます。

従いまして、事務局といたしましては、本請願にかかる審議を行うことの是非について、委員の皆様にお諮りするものでございます。

(鈴木教育長)

説明が終わりました。重要な請願の審議については、委員会の会議に付すものとされているところ、本日举行教科書採択に関する審議がすでに始まっていることから、静ひつな審議環境の確保の観点から、審議を行うことの是非についてお諮りするものでございます。

ご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

(鈴木教育長)

特にご意見、ご質問もないようでございます。

事務局からは、静ひつな審議環境確保の観点から、審議を行うことに疑義があるとの説明もございましたので、審議しないものとのと決し、口頭陳述も行わないこととしてよろしいでしょうか

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(鈴木教育長)

では、次に日程第2「令和3年度使用教科用図書の採択について」を議題といたします。

本日は、令和3年度に使用する中学校用教科用図書のうち、7月29日の臨時会で採択を持ち越しました社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）の採択審議を行います。

(鈴木教育長)

早速ですが、社会（歴史的分野）の採択に関する審議に入ります。臨時会終了後から、一週間経ちましたが、皆さん、ご意見等、ございましたら改めてお願いいたします。

(鈴木教育長)

オンラインでご参加いただいている小嶋委員いかがでしょうか。

(小嶋委員)

まずこの度大変ご迷惑をおかけし申し訳ありません。鈴木教育長他、皆さまにはこのような多大なご配慮をいただき感謝申し上げます。

この度の歴史教科書採択に関しましては、私は前回の臨時会とまったく意見は変わっておりません。これまでこの現在の名古屋市と教育委員会のシステムとしては現場の声をそして専門委員会の評価、そして市民の声、それぞれを尊重しつつ教育委員自身の知見を基にそれぞれが教科書を推薦するということになっていると思いますが、私すべての教科書を見させていただいて、やはり教育出版が様々な点で生徒が学びやすい工夫が随所に取り入れられている点、また幅広い史実の取り扱いといった点で、この名古屋市立中学校の教科書としてふさわしいのではないかと考えております。よろしくお願いいたします。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。

船津委員いかがでしょうか。

(船津委員)

ありがとうございます。私も先回の会議をできるだけそれが続いているという状況で自分の中で先回お話ししたことが自分として納得ができるかということは繰り返し勉強させていただいたりさせていただきました。その間に世の中で色々なご発言もあったかと思えますけれども、一つの会と考えたときに前回の考えの中で自分が発言した、小嶋委員と一緒にですけども、検定を通った教科書の中で子どもたちがどうやって歴史を学んでいくなかなという仕組みについて、見やすさであったりとか、こだわりとしては、第1章が歴史の捉え方というか、これからの勉強の仕方が入っていて、最後のところでこれから先のことも考えていくとどうやって勉強していくかと、勉強の仕方みたいな歴史の見方っていうところに注力されているかどうかという点も一緒に考えていったときに前回お話ししたとおりの私の選択理由は間違っていないなと思っておりますので、意見は変わっておりません。

(西淵委員)

先回以降、この歴史教科書をめぐる様々な問題の歴史的経緯も踏まえて再度勉強させていただきました。その中で基本的には先回と考えは変わっておりませんが、やはり歴史的事実の意味づけというものは、学ぶ子どもたちがすべきものだろうと。子どもたちが学べるようにして、正確な事実を与えていくということだというふうに思います。

その事実がどの程度書いてあるか、どこまで書いてあるかということは検定を通った教科書の記述範囲内ということで、色々書いてある部分も書いてない部分もあるかと思えますけれども、すべて見たところではですね、教育出版ですね、中身がですね、相当に書いてあるのではないかとというふうに思いました。

それから先回例えば、極東軍事裁判のですね、東京裁判におけるインドの判事のご意見がございました。こういうものはやはり必要なんだろうと。中学校のレベルでそれが大切かどうかということも自分でも自問自答をいたしました。ところがですね、やはり学ぶのはですね、1年生、2年生なんですね、中学校の。小学校の歴史認識というのは人物学習なんですね、基本的に。それぞれの人物を通して、通史で学ぶわけではないんですね、小学校というのは。6年生でやるわけですけど。そんな中で中学校へきて、初めて日本の歴史を通史的に学ぶという事をして、しかも地理と歴史を平行的に学習して2年生にそれも学びながら、さらに最後にその歴史認識を踏まえた、あるいは地理認識を踏まえた上でですね、公民的資質の育成を図る公民科へつなげる。こういう社会科の組み立てにな

っているんですね。先ほど言いましたインドの判事さんの話でもですね、どこで学ばせるかと発達段階のどの部分で学ばせるかということで、私、高等学校の教科書、一番よく使われているのは本市では山川出版社なんですけど、こういうものだとか、他のものも見させていただきました。そういうところには確かに小栗委員ご指摘のようなインドの判事さん、オランダの方の反対意見のこともちゃんと記述してあります。従ってですね、今、進学率がこれだけ高いときにですね、確かに義務教育段階でどのような歴史認識を与えるかっていうことも大事なんですけど、それはやはり学習指導要領の範囲と、そういうふうに考えて学ばせていくべきではないかと思うわけです。ですので、高校でもこれ学ぶんだよ、日本史ってある、世界史ってある、そういう学びへ、子どもたちが歴史を好きになったままで繋げてあげたいというというのが一番の思いでございます。

そういうことから考えるとやはり教育出版のものが学びやすいというふうに私は思いました。以上です。

(鈴木教育長)

鎌田委員いかがでしょうか。

(鎌田委員)

私は前回は育鵬社を推しました。観点は2つありまして、邦人の安全確保という観点から、そして近隣諸国との今後の関係についてということでそういう観点から考えますと、最初の邦人の安全確保という観点からは山川がいいのではないかと、次の観点では育鵬社が若干いいのかな、全体では育鵬社ということで、育鵬社を推した次第であります。

ちょっと話は変わりますが、ドイツはですね、戦後、教科書で非常に詳しく近現代史を教えていると言われております。実際教科書を確認したわけではありませぬので、事実かどうかはわかりませんが、近隣諸国と仲良くできているというのはその教育がしっかりしているからというようなことが言われているかと思っております。そういう意味で歴史の教科書は近現代史についてもしっかりとポイントを押さえていくべきなんだというふうに思っております。従いまして、前回いくつかのポイント、必要条件、十分条件、これにつきまして、指摘させていただきましたけども、すべての教科書が国の基準を満たしているわけですから、どれがより良いかという観点から、強いて言えばこれかなということで選んだわけですけど、教育委員6人のうち御三方が教育出版でございまして、教育出版も非常に良い教科書だというふうに思っております。公民で記述間違いを指摘したところ、出版社から変更を検討するとの回答があったこともありますので、前回指摘させていただいた点、これを名古屋市教育委員会として学校の現場なりにこういう意見を持っていた、そういう指摘をしていた教育委員が一人いたということをお伝えいただくことを検討していただけるということであればですね、私もこの教育出版の教科書の採択に賛成い

たします。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。

教育委員会での検討についてお話ありましたが、事務局どうでしょうか。

(藤好指導室長)

ただいま、鎌田委員からご指摘いただいたご要望につきまして、意見があったというようなことを現場の方に伝えていくというようなご要望だと思いますが、そういったご要望については現場の方に伝える方法について工夫をさせていただきたいと思います。

教育課程においてもまた検討させていただきたいと思っております。

(鈴木教育長)

四人の方から教育出版でどうかというお話でございますが、小栗委員いかがでしょうか。

(小栗委員)

まず、西淵委員にお礼を申し上げたいなと思っております。前回私が申し上げたパール判事のことをフォローというわけではないんですが、お話をいただいたことに感謝申し上げます。

今回、私が重視させていただいたひとつは市民の声がありました。384通ありまして、その中に色々な意見があつて分かれてました。ある教科書を推す団体もあればですね、ある教科書を反対する方もおられまして、まず市民の方がどういう意見を持っているのかなということを重視させていただきました。それから学校の先生、専門家、特に学校の先生におかれましては、やはり長年使っている教科書が良いということもありまして、当然の結果であろうと思つてました。専門家の意見も交えた上で自分が意見をもつたつもりなのと、それからこれもお話しさせていただいたんですが、工藤先生の我々レクチャーを受けた中に今の子どもたちが自分の国対して、もっと誇りをもったりですね、自分自身で国を変えていけるということが、諸外国から比べて日本はとても弱い、こういうような意見を受けたのが非常に印象的でした。今回私が期待していることというのは、名古屋市というのは不幸な事件もあつたりとか、河村市長が不幸な子どもは出さないということもあつたり、やっぱり自信を持ってもらいたいと思つてました。特に生きていくうえで自身を失っている子どもたちがどうしたら、自信を持てるのかなと考えたときに、決して歴史だけで決まるものではないし、すべて学習の中にそういったことがぜひ入っていけばいいなと思つてまして、やはり日本というのは自分たちが住む国であつて、その日本という国に対して、誇りや愛着というのはぜひ持っていただけるような教育をしていただきたいなということ。

それから教える家庭の中で、先ほど申し上げましたように、色々な市民の声がありましたので、その市民の意見にあったように、色々な考え方、捉え方にあるわけなんです、一面的ではなく、教育の中で多面的な見方、多様な考え方ができるように子どもたちを育てていただきたいなと思っております。特に、私は心に響いた諸外国がいろんなことを言っても、やはりインドのパール判事が主張をきちんと通されたというようなことがこれからグローバルで僕らの世代というのは頑張っていけないといけないときに、どんなときでも自分の意見を主張できるようなそういったこともぜひ学んで欲しい、それが西淵先生がおっしゃったように高校の教科書で学んでいくのであればですね、高校の教科書でもいいし、それがもしもうちょっと若年時で必要があるということであるならば、それも考えていただく、結果、自分たちの国に自信も持っていただける、というようなことをぜひお願いしたいと思います。結果としては皆さん、大方の方が教育出版ということですので、どの教科書も素晴らしいと思っておりますので、そちらの方で私は良いかと思っております。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。

小栗委員からも教育出版でもというお話をいただきました。子どもたちが、自分自身あるいは自国について自信を持てるような教育ということについて、丁寧なご示唆もいただきましたので、教育委員会としても今後の活動に生かしていければなというところでございます。

皆さまのご意見を伺ったところで、令和3年度使用中学校用教科用図書「社会（歴史分野）」については、教育出版を採択するということにしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(鈴木教育長)

続きまして、「社会（公民的分野）」の採択に関する審議に入ります。

まずは、先日の臨時会で鎌田委員からご指摘がありました東京書籍の教科書に関し、事務局から説明をお願いします。

(瀨瀨指導主事)

先日の臨時会でご指摘をいただきましたユダヤ人国家の存在につきまして、東京書籍の

方に問い合わせをさせていただきました。編集局社会編集部長の和田様よりご回答いただきましたので、今から読み上げさせていただきます。

「教科書の記述について、謹啓、平素より弊社教科書にご指導賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。ご指摘と問い合わせを賜りました、令和3年度発行予定の弊社社会科（公民的分野）教科書の記述につきまして、以下にお答え申し上げます。

当該教科書 212 ページ 1 行目から 2 行目の「パレスチナには、紀元前 10 世紀ごろまで、ユダヤ人の国家が存在していました。」という記述につきましては、紀元前 11 世紀に成立し、紀元前 10 世紀に分裂した、統一王国についての記述でございます。

この統一王国は、紀元前 10 世紀に北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂し、それぞれが紀元前 6 世紀までに滅ぼされることとなりますが、中学校の学習段階と、このページが「パレスチナ問題と中東和平」という現代の国際問題について記述することを主眼としているため、こうした経緯について詳細に記述することはしておりません。

一方で、現在の記述では、生徒がユダヤ人の国家が紀元前 10 世紀ごろに完全になくなったと誤読する可能性もございますので、来年度からの供給に向けて、より適切な記述について検討してまいります。

以上、簡単ではございますが、ご指摘とお問い合わせにつきましての回答とさせていただきます。今後も弊社教科書にご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。謹白。」

以上になります

（鈴木教育長）

それでは説明が終わりましたので、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

（鈴木教育長）

よろしいでしょうか。公民の教科書につきましては、今の回答、説明があった部分を除いては、東京書籍を推す声が多かったかと思っておりますけども、他にご意見あるようでしたら。よろしいですか。

小嶋委員よろしいですか。

（小嶋委員）

東京書籍でそのイスラエル、パレスチナに関する記述が誤りであるのであればそれは困ったなと思いましたが、ただ今のご説明で誤っているわけではないということがわかりましたので、よろしいのではないかとこのように思います。

（鎌田委員）

小嶋委員。これはですね、誤りかそうではないかというところ明確に誤りなんですね。といいますか、正確さを欠いているんです。統一国家が紀元前 10 世紀ぐらいまで、つまり統一という言葉が入っていればいいんです。ユダヤ人国家と北と南に分かれましたが、国家は国家なんです。ユダヤ人国家は存在していたんです。北のイスラエル王国は紀元前 722 年、南のユダ王国は紀元前 586 年まで存在していたわけでありまして、間違いかそうでないかと言いますと間違いなんですけども、ただ、誤読的表現でも構わないですが、基本的にまずこれは、中学生に教えるべきことかどうか、必要性があるかということ必要はないと思います。ですので、書かなければいいわけでありまして、書く以上は正確な表記をしていたきたかったなど。詳細な記述にしていないうことですけど、詳細なことはいらなくてですね、正確な言葉だけを書いてくれるとよかったですなど、そういうようなことなんですけど、ただ改善に向けて検討していただければいいということですので、私はこれで十分であると考えます

(鈴木教育長)

はい、ありがとうございます。それでは、令和 3 年度使用中学校用教科用図書「社会（公民的分野）」についてでございますが、「東京書籍」を採択するというところでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(鈴木教育長)

これにて、日程第 2「令和 3 年度使用教科用図書の採択について」を終了いたします。

これですべての科目につきまして採択が終了いたしました。採択結果につきましては、次の定例会の際に、各委員に一覧表を配布させていただきます。

傍聴の方も含め、ここにおられる皆様に再度お願いいたします。令和 3 年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導により、採択結果は 8 月 31 日まで非公開となっております。採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

(鈴木教育長)

それでは、次の議事に移りますので、職員の入替えをお願いいたします。

また、これより、10分間の休憩を取りたいと思います。

傍聴人の方で途中退席をされる方は、この間に退室していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では10分間と休憩をとらせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局職員の入替え】

【休憩 午後3時28分】

【再開 午後3時47分】

(鈴木教育長)

では再開をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に日程第3第13号議案「名古屋市立小学校の通学区域の変更について」について、を議題といたしますので、事務局の説明をお願いします。

(荒木教育環境計画室長)

第13号議案「名古屋市立小学校の通学区域の変更について」ご説明をさせていただきます。

本件は、中村区の中村小学校及び日吉小学校の通学区域を変更するものでございます。1枚はねていただき、参考図をご覧ください。

現在、中村小学校の通学区域となっております黄色に着色した部分を、日吉小学校の通学区域に変更しようとするものでございます。

この部分は、現在中村小学校の通学区域となっておりますが、町内活動は日吉小学校区で行っていることから、地域より町内活動と合わせる形で通学区域変更の要望があったものでございます。

なお、本件通学区域の変更に伴い、中学校につきましても豊正中学校区から豊国中学校区へ変更されることとなります。

施行日につきましては、令和2年9月1日からとしたいと存じます。

また、現在この地域には、中村小学校及び豊正中学校に通っている児童・生徒はおりませんので、経過措置は設けないことといたします。

以上、よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、ご意見、ご質問はありませんか。

(鈴木教育長)

特にご意見もないようですので、日程第3第13号議案「名古屋市立小学校の通学区域の変更について」につきましては、原案どおり可決してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(鈴木教育長)

それでは、これより日程4へ移ります。また、これ以降の議事は非公開となりますので、恐縮ですが、傍聴人及び記者の方々は退席してください。

日程第4は非公開とされたため、名古屋市教育委員会会議規則第12条の規定により、会議録は別途作成。

午後3時53分終了